

2 「放課後子どもプラン」部会

◆第1回部会

期 日：平成23年6月17日（金）

会 場：大津合同庁舎 7C会議室

出席者：神部委員（部会長）、水野委員（代理 清水先生）、
福山委員、澤委員、山田委員、岡本委員

事務局：県生涯学習課（3名）

県子ども・青少年局（2名）



（第1回部会）

1 開会

- ・県生涯学習課 挨拶

2 協議

（1）事業内容についての説明

放課後子どもプラン推進事業について

- ・放課後子ども教室推進事業（生涯学習課 担当より）
- ・放課後児童健全育成事業（子ども・青少年局 担当より）

（2）自己紹介&意見交換

これまでの「放課後子どもプラン」県推進委員会の経過（テーマ）

- ・H19 人材確保と事業拡大の支援策
- ・H20 学校との連携協力のあり方
- ・H21 教室とクラブの連携推進
- ・H22 教室とクラブの連携推進

これらの経過をを踏まえて今年度は、原点に立ち返り子どもたちの生活課題を再確認していくことになった。

- ・H23 「地域として子どもたちの生活をどう守っていくのか」
～今、子どもたちの放課後に足りないものは～

【主な意見】

- ・特別支援学級の児童の対応など、運営の難しさを感じている。
- ・長浜市14教室を、3名のコーディネーターで担当している。それぞれの教室のやり方があって調整が難しい。
- ・野洲市は、学童の定員オーバーを補完する事業としての位置づけで教室を実施している。指定管理で、社会福祉協議会に委託している。
- ・学校は、会場を提供しているだけで、ほとんど関わりが無い。安全管理員の方々ですべて対応してもらっている。
- ・学童は、「学校の雰囲気」ではなく、「家庭にいる雰囲気」で接するよう指導員にもお願いしているが、指導員の考え方にも違いがある。
- ・地域の子どもたちが、友だちを求めて学童に遊びに来る。受け入れてあげたいが、何か起こった場合を考えると無理になってくる。
- ・いつまでも学童が居場所となつてほしくない。4年生以上は地域に返したい。簡単に塾に行かせる保護者。
- ・「自尊心のない子」、「自信のない子」が多い。親が体験をさせてほしい。「学び座」に保護者の参加も求めている。加えて、自分の子以外の子を見る経験も大事。
- ・学校→学童→家庭とスイッチを変えることも大事。いろんな大人と出会うことが大事。いろんな指導があるということを知ることを経験。
- ・子どもに足りないものは「時間」。「遊びを工夫できない子ども」「発想力」の乏しい子どもが多い。放課後体育館にいることは、確かに「安全・安心」かも知れないが、地域の人とのつながりが薄れている。
- ・異年齢の交流、創造的な遊び・・・いかにして高学年の子どもを教室に入れていくか。高学年の子が魅力を感じる。冒険遊び場、プレイパーク事業、昔遊び、工作等に人気がある。
- ・親自身が、創造的な遊びを知らない世代（テレビゲーム世代）となつてきている。
- ・時間が足りないので、次回の部会で深めていくことを確認。

3 連絡事項

(1) 今後の部会の予定について

(2) 「平成23年度指導者等研修会」について

第1回 7月22日(金) 9:30~12:00 会場: 県庁新館7階大会議室

内容: 三部会合同研修 講師: 村田 和子氏

第2回 10月予定 内容: 合同研修会(家庭教育支援活動部会と合同)

第3回 1月27日(金) 内容: 事業成果報告会(三部会合同)

4 閉会

・県子ども・青少年局 挨拶

◆第2回部会

期 日: 平成23年10月12日(水)

会 場: (部会) 栗東市コミュニティーセンター大宝

(視察) 栗東市放課後子ども教室「大宝わくわくタイム」(大宝小学校体育館)

出席者: 神部部会長、水野委員、福山委員、澤委員、久保委員、岡本委員

事務局: 県生涯学習課員(3名) 子ども・青少年局(1名)

現 地: 栗東市生涯学習課「放課後子ども教室」担当者 竹綱 藤司 氏

1 開会

・県生涯学習課 挨拶

2 DVD視聴『地域とつくる「豊かな学び」』(文部科学省)

・三事業(「学校支援地域本部」「放課後子ども教室」「家庭教育支援」)を、有機的に組み合わせ実践している「杉並第一小学校」の実践事例を紹介し、総合的な教育支援活動のイメージを膨らませた。

3 協議

・事務局より、第1回部会の経過と本日の協議内容について説明。

【今年度の部会テーマ】

「地域として子どもたちの生活をどう守っていくのか」

～今、子どもたちの放課後に足りないものは～



(意見交換の様子)

【主な意見】

- ・異世代、他学年との交流。地域の大人との交流。地域の伝統行事も少なくなっている。学校の学びが「社会で生きる力」となっているか。放課後子ども教室は、社会や地域と関わる場として、保護者からも好評である。長い目で見たときの「子どもの育ち」が重要。
- ・自分の楽しみだけでなく、みんなと楽しく過ごす体験が大事。週末に実施している地域子ども教室は、自分が学びたい子どもが来ているのでモチベーションが高い。しかし、平日の放課後子ども教室は、親から無理やり行かされているので、子どもの参加姿勢に課題が多い。
- ・異世代交流が大事。子どもだけでなく親世代も交流が必要。色々な地域の大人と関わることで子どもも視野が広がる。自然とふれあう経験が少ない。マッチの使い方を知らない子、たき火や飯ごう炊さんの経験の無い子。→「火育」(子どもが、すぐくよこぶ)
- ・人間関係が希薄。運動会を昔は字単位で見たが、最近は家族ごとに場所取りしてバラバラ。親世代がTVゲームに熱中してきた世代。トランプの文化、鬼ごっこのおもしろさを知らない子ども。親に想いを持って育てられていない子どもがいるように思える。
- ・若い親子連れ→子どもが「ねえ、ママ! ねえ、ママ!・・・」と関わりを求めているのに、ずっと携帯でメールを送っている母親の姿をひんぱんに見かける。学校で学んだ知識→学童でおやつを分ける→学びを生かす場を工夫していきたい。他人に叱られる経験。うちの子を叱らないでくださいと言う親がいる。学校での学び→川遊び「水が澄んだら見つかるよ。」学びを生活につなげる場→豊かな体験
- ・いろいろな大人との関わりが大事。子どもへの関わり方や考え方もいろいろあって良い。答えは一つではない。放課後子ども教室がそういう学びをする良い場になる。
- ・今の子どもたちは、大学まで同年齢の関わりが中心。上級生が下級生の面倒を見る場がない。

ゲームで遊ばされている世代。何も工夫しなくても勝手に遊べる時代。物が無い方が工夫する。石ころ1個あれば遊びが作れる。遊びを自分たちで創り出していく力を育てる。そういう取組を設定していく。自然の中での遊び方を経験させていく。保護者同士のつながりや親への働きかけ（子育てを話題として）が必要。指導者の養成。プレイパークワーカー→一緒に遊びながら軸足を一緒にして、子どもに対して1人の人間として接し、伸ばしていく指導者。大人も一緒に楽しむという視点。「遊び心」を引き出すポイント→研修会の開催。安全管理員をしながら、自分も子どもとの関わりを楽しむという視点。

- ・大人がお膳立てしすぎ。市町単位でスタッフの研修ができると良い。→創造的な遊びの研修。創造力を引き出す関わり方の研修。など

*第1回、第2回の協議を踏まえて、各委員の意見を整理し、第3回（最終）部会で、今年度のまとめ（案）を提示することを確認。

4 現地視察

「大宝わくわくタイム」（栗東市放課後子ども教室）

竹綱氏より、事業説明を受けた後、隣接する大宝小学校体育館へ移動し、「大宝わくわくタイム」の様子を視察した。

9～10名のスタッフ（ボランティア含む）で、約70名の子どもたちを指導されていた。

【活動の流れ】

- ①帰りの会終了後、各自で体育館へ集まってくる。
- ②体育館の隅に並べられた長机で宿題をする。
※スタッフのサポート・子ども同士の教え合い
- ③全員が集まった段階で、「設定遊び」
※この日は、体操とペットボトルボーリング
- ④終了後は、保護者の迎えまで自由遊び。
- ⑤保護者と一緒に帰宅する。



（宿題タイム）

（荷物置き場）

【委員からの感想】

- ・指導者（安全管理員）のみなさん、本当に大変だと思いました。私が親の立場なら放課後の一定時間、安全な場所で、大人の目がある場所で、ああして健全な遊びをさせていただけることに感謝すると思います。
- ・すぐ隣が学童保育ですが、どちらも目の前の子どもの対応で精一杯で、連携すらも大変だろうと想像しました。
- ・栗東市の取組は、よくお話を伺っておりましたが、頭の中で想像するだけだったので、実際に見せていただくとよく分かりました。今後も、こういった現場の視察があると、討論も進みやすいと思いました。
- ・たくさんのスタッフが、周到に打合せや準備をして開催されている様子が分かりました。何年もかかって積み上げられてきた事業で、スタッフの方々がベテランで、安心して教室を任せられる存在であることが分かりました。
- ・子どもたちがしっかりと話を聞いて従っているのでスタッフとの信頼関係を感じました。
- ・予め設定された「あそび」に、子どもたちの遊びたいという要求が満たされるのか…という不安もある。けれど、今の子どもたちにとって、場所、仲間、時間を大人が用意してあげないと子ども同士つながって遊ぶこともできないので、「子ども教室」がその役割を果たしているかとも思う。



（設定遊び ペットボトルボーリング）

5 閉会

- ・県生涯学習課 挨拶

◆第3回部会

期 日：平成24年2月8日（水）

会 場：コラボしが21

出席者：神部部会長、福山委員、岡本委員、久保委員

事務局：県生涯学習課員（3名）

県子ども・青少年局（2名）



（第3回 部会）

1 開会

・部会長 挨拶

2 日程説明

3 協議

（1）今年度の部会経過および研修内容について

（2）今年度テーマに基づく意見交換の集約について

【概略】

これまでの2回の部会で出された意見を四つのカテゴリーに整理した。

- ①人間関係に関すること
- ②遊び方に関すること
- ③子ども自身に関すること
- ④支える側（大人）に関すること

その上で、放課後児童クラブと放課後子ども教室とが、共通の課題として取り組みたい重点課題を絞り込んだ。まとめについては、次ページのとおり。

【主な意見】

- ・障害のある子や外国籍の子どもなど、立場の弱い子どもへ攻撃が気になる。
- ・冒険遊びは大切だと思うが、させる側としては、「怪我をさせる」ことが心配。
- ・ダイナミックな遊びを見せると、「そんな遊びよりも勉強させてほしい。」と言う親もいる。
- ・今の子どもは、1人で遊んでいても平気。群れて遊ぶことの楽しさを知ってほしい。
- ・生きる力としての基本的な生活習慣が弱い。たとえば、寒暖に応じて衣服を調節すること。
- ・「親の愛情」を受けられていない子どもが多い。子どもと楽しむ時間を共有したり、共感したりするような親の関わり、大人の関わりが足りない。
- ・次年度の研修では、子どもへの大人の関わり方（ほめ方、しかり方・・・）を学ぶのも良い。

（3）放課後子どもプランと他の取組との連携のあり方について

【概略】

後半に開催される推進委員会の協議題について、事前に部会内で意見を交わしておきたかったが、十分な時間が取れなかった。

ただ、共通の視点や目標を決めて、連携して取り組むことが重要であることを部会長のまとめの中で確認できた。

4 連絡事項

・実践事例集のまとめ方について

5 閉会

【放課後プラン部会での意見交換の集約】

人間関係に関すること

- 異年齢や異世代との交流
- 地域とのつながり
- 規範意識（ルール・マナー）
- 地域の大人に叱られたりほめられたりする経験
- みんなで何かをする経験
- 友達への気配り

遊び方に関すること

- 遊びを工夫・創造する力
- 冒険的な遊び
- 自然とふれあう遊び
- 体を動かし汗をかく遊び
- 主体的な遊び
- 群れて遊ぶ経験
- 遊び方を教わる場

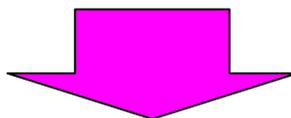
**今、子どもたちの放課後に
足りないものは・・・**

子ども自身に関すること

- 自信や自尊感情
- 基本的な生活習慣
- 親からの愛情
- 郷土への愛着や感謝の気持ち
- 辛抱してがんばる姿勢
- 周りを見る目、協調性
- 自由な時間

支える側（大人）に関すること

- 家庭的な雰囲気醸成
- 親同士のつながり、交流
- 共感的な関わり
- 学校での学びを生かす工夫
- スタッフの研修の場
- ・子どもの能力や遊び心を引き出すための効果的な関わり方など



共通で取り組みたい重点課題

- ★1 異年齢のつながりや規範意識・協調性を育てる集団遊び
- ★2 基本的な生活習慣を確立するための指導
- ★3 大人の関わり方の工夫
(共感的な関わり、子どもの能力や遊び心を引き出す工夫 など)